

一般社団法人
日本臨床歯科
CAD/CAM学会
第三回学術大会

社)日本臨床歯科CAD/CAM学会

一般社団法人
日本臨床歯科CAD/CAM学会
第三回学術大会

「アナログとデジタルの融合を考える」

Think about fusion of analog and digital

振込先	銀行名	みずほ銀行	早期事前受付 ～11/4まで	通常事前受付 11/5～11/20	当日 11/21～12/3 ※システム上、11/21以降のご参加 は当日参加登録となります。
	金融機関コード	[0001]			
	支店名	新宿新都心支店	会員 Dr	¥15,000	¥20,000
	支店番号	209	会員 DH／会員 DT	¥5,000	¥8,000
	口座名	一般社団法人日本臨床歯科 CAD/CAM学会 会費管理	一般 Dr	¥25,000	¥30,000
	口座番号	普通 1666777	一般 DH／DT	¥10,000	¥15,000
			懇親会 (12/03)		¥10,000
		スペシャルハンズオン		¥50,000	

※表示価格は全て税込表示となります。



下段のフォームによりFAXにて申し込むか、
ホームページ <http://www.jsccad.org/> よりお申し込み下さい。

Web申し込みの場合はクレジットカード決済もご利用になれます。

※参加申し込みシステムの運営上、11/21以降は事前受付はご使用になれません。その場合は全て当日会場にて参加登録/受付をさせていただきます。

※ご登録後、参加費、ハンズオン参加費、懇親会費の合計金額を上記口座までお振り込み下さい。

※ご入金の確認を持ちまして正式なお申し込みとさせていただきます。

※領収書は発行しておりません。カード明細または振込み証をご利用ください。

社)日本臨床歯科CAD/CAM学会事務局 FAX: 03-5981-9852

第三回学術大会 「お申し込みフォーム」

フリガナ				e-mail	@
お名前				tel	- -
勤務先				fax	- -
ご住所				懇親会	☐ 参加 ☐ 不参加
☐ 会員 ☐ 一般		☐ Dr ☐ DH ☐ DT			
スペシャルハンズオン ※ハンズオンをのみ受講はできません	☐ 参加 ☐ 不参加		☐ 第一部 (9:40-11:10) ☐ 第二部 (11:30-13:00)		

デジタル技術の歯科応用が一般的かつ成長期となった今こそ改めて立ち返り、アナログ技術の歴史と重要性を再考しその二つの融合について考える必要がある。最新のテクノロジーを手に入れながらも片方の技術に固執することなく、両者を上手に利用し、より良い歯科医療のあり方を確立していくことこそが今求められている。アナログとデジタルが融合した未来の歯科医療についてディスカッションする場として本学術大会が機能することを期待している。

会長 草間幸夫/大会長 佐々木英隆



日時 2016年12月03日(土),04日(日)

会場 富士ソフト アキバプラザ

東京都千代田区線堀町3 Tel 03-5209-6258 JR秋葉原駅中央改札口より徒歩2分

12/03,04 (土/日) 5Fアキバホール、レセプションホール

社）日本臨床歯科CAD/CAM学会 第三回学術大会



12月3日／土曜日		12月4日／日曜日	
9:00 開場			
9:30-9:40 開会挨拶		9:30 開場	
9:40-11:40 会員発表	スペシャル ハンズオン 9:40-11:10 第一部 11:30-13:00 第二部	10:00-11:30 基調講演	
11:40-12:30 Lunch Time		11:30-13:00 Lunch Time 企業テーブルクリニック ・シロナデンタルシステムズ株式会社 ・Ivoclar Vivadent株式会社 ・白水貿易株式会社 ・株式会社GC ・株式会社松風	
12:30-13:20 教育講演		13:00-14:00 教育講演	
13:30-17:30 CAD/CAMシンポジウム		14:00-14:30 Break Time	
CAD/CAMと審美 CAD/CAMとインプラント CAD/CAMと保険治療 CAD/CAMとチェアサイド		14:30-16:00 特別講演	
17:30-18:00 ディスカッション		ディスカッション／表彰式	
19:00- 懇親会ホテルグランドパレス			

12/3（土）

09:30 - 11:30 会員発表

12:30 - 13:20 教育講演

伴 清治 先生

13:30 - 16:30 CAD/CAM シンポジウム

疋田 一洋 先生

北原 信也 先生

墨 尚 先生

北道 敏行 先生

16:30 - 17:00 ディスカッション

座長 馬場一美 先生

草間幸夫 先生

19:00 -

懇親会

ホテル グランドパレス

他スペシャルハンズオン／企業展示など



会員発表

発表の種別： 口演発表 座長：江本 正先生／武末 秀剛先生

発表の方法： 口演発表 時間10分（質疑応答3分）パソコン出力によるプロジェクター投影

教育講演

伴 清治 先生（愛知学院大学）

歯科用ジルコニアの最新事情

CAD/CAMシンポジウム 座長：馬場一美先生／草間幸夫先生



CAD/CAMと保険診療

CAD/CAM冠の保険導入後は歯科用CAD/CAMシステム、CAD/CAM冠用レジンブロックなどの関連製品材料の販売が爆発的に増加し、診療現場だけでなく、歯学部教育にも大きな影響を与えている。今回は先進医療申請から保険導入に到る経緯と保険導入後の歯科界の変化についてご説明したい。



疋田 一洋 先生
北海道医療大学



北原 信也 先生
東京都開業



墨 尚 先生
愛知県開業



北道 敏行 先生
兵庫県開業

審美修復治療における
デジタルデンティストリーの潮流

審美修復治療はドクターと技工士の綿密な連携を必要とするため、従来の歯科用CAD/CAMでは審美や精度の点で無縁と語られる事もあった。今回私は、昨今の技術革新においても許容できるところまできている最新機器や情報のアップデートとともに、日本におけるデジタルデンティストリーの潮流について考察する。

【the Abutment】～インプラントにおける
粘膜貫通部を再考する～

類まれな環境下で病理学的には奇跡的な確率で生存しているデンタルインプラントがデンタルインプラントである所以をアパットメントの材質的な考察を踏まえ、長期的な予後に関してデイスカッションされるべきである。本講演ではデンタル・インプラントがデンタル・インプラントたる所以を粘膜貫通部で大きな役割を果たすアパットメントから再考してみたいと思う。

アナログとデジタルの融合
(chair-side solution)

経験を積み重ねるほど0⇒1⇒2といったデジタルから、0⇒0.1⇒0.2...⇒2といった一見ノイズに感じるかもしれないアナログ技術をデジタルと融合させることに新たなchair-side solutionの価値が見出されるのではないだろうか。今回は当院で行なっているchair-side solutionとアナログとの融合について述べる。

懇親会 ホテルグランドパレス

学術大会講演者を初めとする国内外多くのCAD/CAM Dentist や CAD/CAM Dental Hygienist, CAD/CAM Dental Technician たちと、楽しい一時をお過ごし下さい。

12/4（日）

10:30 - 11:30 基調講演

殿塚量平 先生

11:30 - 13:00 企業テーブルクリニック

シロナデンタルシステムズ

Ivoclar Vivadent株式会社

白水貿易株式会社

株式会社GC

株式会社松風

13:00 - 14:00 教育講演

馬場一美 先生

14:30 - 16:00 特別講演

Claude Sieber 先生



殿塚 量平 先生

修復治療前処置としての
歯周外科処置

歯周外科処置は、様々な処置の中でも多くの術者、また患者ともに出来ることならば避けたい処置であることは間違いないところである。それは、患者の感じる恐怖心、また術後の腫れ、痛みなどの患者の不快症状にはじまり、治療を待つ期間の長さなども考慮すると、なんとかして避けて通りたいステップであると思う。しかし、歯肉縁下にカリエスがある場合、もともと歯周環境をあまり考慮されていないで修復されてしまっているような、特に隣接面において歯肉縁下深くまで形成されてしまっているメタルインレーや、クラウンを除去して、接着修復を行わなければならない場合に、フィニッシングラインをどのように設定するかは非常に問題となる。接着修復治療においては、防湿をはじめ出血や、歯周組織からの浸出液のコントロールは必須であるからである。出来ることならば歯肉縁上で仕事ができることが術者、患者ともに最良の結果につながることは間違いないと考える。今回はこの歯肉縁下の問題を解決する外科処置のコツ、法則、また術後の不快症状を減らすための方法などをお話させていただき、さらに当院において患者の満足度の高い露出根面被覆についても含め、時間の限りお話させていただきます。



馬場 一美 先生

歯科医学教育における
デジタル・デンティストリー

過去20年間のデジタルならびに情報技術の加速度的な発展は人々の生活に様々な福音をもたらした。歯科医療の進歩においても両者は中核的な役割を担い、これらの技術を用いたイノベーション、すなわちデジタル・デンティストリーは、歯科医療の枠組み、ワークフローの変化を強力に推進してきた。例えばCTデータを用いた解剖学的構造の3次元再構築、インプラント埋入シミュレーションやガイドサージェリーなどはデジタル技術なくして実現することはなかったと言っても過言ではない。補綴装置や歯冠修復物の製作についても、CAD/CAMを用いた補綴装置が広く普及し、ロストワックス法による従来型の歯科技工ワークフローに取って代わるようとしている。また、光学印象の普及はデジタルワークフローの枠組みを技工のみでなく、臨床手技にまで拡大し、補綴歯科治療の全てがデジタル化される可能性が現実味を帯びてきた。こうしたデジタル化の流れによる歯科治療ワークフローの変化は、当然、歯科医学教育に反映される必要がある。講演では、まず、歯科医療のなかでデジタル化がこれまで担ってきた役割を総括する。引き続き、デジタル・デンティストリーに関連した歯科医学教育の現状と今後の展開を考察する。



Claude Sieber 先生

art & experience®
The Art of Seeing The Invisible

We should not loose individuality and emotion in our work; originality and creativity are essential . We must continue to observe and use our talents and knowledge to replicate nature

- The primary determinants of natural tooth aesthetics
- Methods to incorporate these determinants into restorations
- The VITA VM Material and it's application
- Options and possibilities
- Clinical cases
- Various aspects of intra-oral dental photography

※時間、演題につきましては変更となる場合もございます。